



# 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ニュースレター

## 1. 福島第一原子力発電所の現状



### 参考資料：

「福島第一原子力発電所」の現状と廃炉に向けた取り組み  
 廃炉・汚染水対策福島評議会事務局(2014年8月25日)  
[http://www.tepco.co.jp/decommission/images/decommission-ing\\_materials01-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/decommission/images/decommission-ing_materials01-j.pdf)

### 目次:

- 1. 福島第一原子力発電の現状
- 2. 健康手帳電子化システム
- 3. 尿中セシウム検査を再開しました
- 4. 放射性物質や被曝に関する研修
- 5. 甲状腺エコー検査
- 6. 英語版ホームページを公開
- 8. 会費納入・寄付・未使用切手寄付感謝
- 9. 助成



2014年も終わろうとしています。東日本大震災発災から時間が経過するとともに、事故後の福島第一原子力発電所の現状について、人々の関心が薄れているように思えてなりません。

東京電力は、廃炉に向けての中長期計画を3期に分けており、現在は第2期にあたります。第2期は1～4号機の使用済み燃料プール内の燃料取り出しを終え、1～3号機の「燃料デブリ」を取り出し開始ができるようになるまでの間で10年以内としています。「燃料デブリ」とは、地震と津波によって冷却機能を失った原子炉燃料が溶融し、原子炉そのものの材料や制御棒と共に冷えて固まったもので、圧力容器内だけでなく、広範囲に散在していると推定されています。しかし建屋内は高線量のため、「燃料デブリ」がどこにどのような状態で存在しているかわからず、効率的かつ安全に取り出すための調査にはまだ至っていません。そういった問題に取り組む前段階としての

第2期の進捗も芳しくありません。廃炉に向けた大きな課題の一つは「汚染水」問題です。溶けて固まった燃料を冷却し、不要な爆発を防ぐためにも大量の冷却水が必要です。しかし、もともと地下水の豊富な土地に建てられた事もあり、発電所建屋内に地下水が流入してしまい、多量の「汚染水」となっています。これには、「凍土方式」(土を凍らせる方法)によって地下水の流入を防ぐ「陸側遮水壁」を設置したり、建屋に地下水が流入する前にポンプで汲み上げて海に放水する「地下水バイパス」を進めています。期待できるほどの効果は得られていません。地下水が燃料棒等の放射性物質とまざることで、約400トンの汚染水が日々発生しています。汚染水の海への流出、汚染水をためるタンクの水漏れ、再度地震が起きた時の安全対策など、様々な問題を多く抱えている状態です。東京電力は廃炉まで30～40年かかると発表しています。

## 2. 健康手帳電子化システム

福祉施設として発展してきた児童養護施設では、健康状態だけをまとめて記録に残す法的な義務はありませんが、入所中の子どもの中には母子手帳を持っていない、あるいは紛失した子どもが少なからずいます。そこに震災以降、被曝が及ぼす健康被害をモニタリングするために様々な検査が行われてきました。本会は、こういった健康や検査に関する記録が散逸しないように一つにまとめて管理する事、さらに将来に備えて保管する事が必要と考え、2012年2月にA4版ノート形式の健康手帳を作成しました。そして3月には児童養護施設の看護師の協力を得て、健康診断と被曝モニタリングのための検査結果を記載して卒園する6名に贈ることができました。

児童養護施設の子どもは様々な診療

科に通院しているので、受療記録が多様です。これをどこまで健康手帳に記載すればよいのかは、職員の判断が必要となります。また健康に関連した記録の管理・保存方法は各施設で独自に行っており、統一した見解はありませんでした。こういう実態から紙媒体よりも電子媒体の方が多くのメリットがあると確信し、本会福島事務所、日本ルーテル教団 東日本大震災対策担当、福味商事株式会社と、三者で各施設を訪問して聞き取りを繰り返して、電子化への課題を一つ一つクリアしてきました。

この9月に、事業の中でも大きな夢であった健康手帳の電子化を実現するソフトウェアを完成することができました。昨年末からの皆様の多大なるご支援と、日本ルーテル教団、フクシマ



児童養護施設向け健康手帳  
電子化システム導入時の  
オリエンテーション

ススムプロジェクトなどの助成の賜物と感謝申し上げます。健康手帳の電子化により1年前は手帳に記入した学校健診・予防接種・成長の記録、放射性物質の影響をモニタリングする各検査結果をパソコンで入力して管理、印刷できるようになりました。いわゆる電子カルテのイメージです。このソフトウェア開発の協働事業を評価してもらうため「第11回日本パートナーシップ大賞」（NPO法人パートナーシップサポートセンター・認定NPO 日本NPOセンター）に応募し、第1次選考を通過しました。

9月以降、7施設で健康手帳電子化システムを導入しました。しかし1施設では、その施設独自のソフトウェア

で諸情報を管理しており、健康手帳のソフトウェアとは互換性がないため、別々のソフトウェアに2回入力するという負担がかかることになり、本格的な運用を延期することにしました。

健康関連の記録だけではなく、日々の業務で必要になる児童の日常生活を記録する機能を持たせれば、さらに利便性が高まることが明らかになりました。そこで健康手帳のソフトウェアに日常生活の記録も加えた拡張版の開発に着手しています。まだ手書き・紙媒体で子どもの生活に関する記録をしている施設を中心に、拡張版開発のための聞き取りを始めています。皆様の継続的なご支援をお願いする次第です。

### 3. 尿中セシウム検査を再開しました

空中に飛散している放射性物質を呼吸により吸入したり、食べ物から胃腸を通して体内に取り込まれることによって起きる被曝を内部被曝と言います。現在本会で行っている内部被曝のモニタリング検査は、甲状腺エコー検査、尿中セシウム検査の2つが該当します。外部被曝のモニタリングとしては、個人線量計(クイクセルバッチ)装着やポケット線量計による小舎・中舎ごとの計測が該当します。

体内に取り込まれた放射性物質であるセシウムは、その一部が尿中に排出されることが知られています。尿中セシウム検査は、内部被曝の査定ができるため「内部被曝モニタリング」の一つとして定期的に検査をしています。これまで再検査も含めて職員延べ95名、子ども延べ94名の検査を実施しました。尿中セシウムの検出をより精密に分析するためには、検出下限を低くして計測する必要があり、子どもでも2リットルの尿をペットボトルにためて、理研分析センター(山形県鶴岡市)に分析を依頼しています。夏は飲水や発汗量も多く検査値も安定しないため、11月から再開しました。

原発事故により放出された放射性物質は、その性質から自然に減衰しており尿中セシウムの検出量は減ってきています。分析は放射性物質をどこまで精密に計測するか、「下限値」を決めて依頼します。下限値は例えば、大海の中の米粒のようなセシウムを掬い取るための網の目の粗さです。検出する下限値を、これまでは1キログラム当たり0.3ベクレルにしていたのですが、さらに微量のセシウムでもキャッチできるよう1キログラム当たり0.1ベクレルまで下げて計測を依頼しています。当初2年7ヶ月前に尿検査を開始した時と比べ、検出下限以上のセシウム量を排出している子どもの数は減少し、検出されたセシウム値も微量になっています。幼い子どもが、微量でも内部被曝し続けている事実を受け止めて、同事業を継続していきます。

これまで検査結果を職員一人一人と共有しながら、被曝量低減につながるような生活についてアドバイスを行ってきました。一部の施設では、子どもに資料を使って結果をわかりやすく知らせていますが、方法についてはさらに検討を重ねていく予定です。

### 4. 放射性物質や被曝に関する研修

施設の職員の知識を高める目的で、年に2回の「栄養勉強会」を開催しています。本年度は第3回勉強会を、7月3日に福島愛育園にて開催し、NPO法人 ふくしま30年プロジェクト

清水義弘氏を講師に迎え「食品の放射能を測るという事」というテーマで4施設の職員16名が参加しました。第4回勉強会は、10月18日にコラッセ福島にて、立命館大学名誉教授 安斎育



尿中セシウム検査  
2リットル貯めるのに  
2日間くらいかかります

## 第9号

.....  
 郎氏に「児童養護施設の子どもたちを被曝から守るために一私たちにできることを具体的に知ろう」と題して、社会的側面も含めてわかりやすく解説していただきました。5施設と自立援助ホーム1施設、本会会員、総計27名が参加しました。

児童養護施設への訪問研修も行っています。7月には福島愛育園にて開催し、「東京電力第1原子力発電所による放射能汚染の人体への影響」というテーマで本会澤田による園内研修に、32名の職員が参加しました。園内研修に参加した職員の感想の一部をご紹介します。  
 “これまで放射能について難しいな・・・と思っていました。お話を聞いて子どもたちを守るのは私たちだと改めて意識を持ち、きちんと理解して守る、検査を受ける、記録を残す等しなければならぬと思いました。”“放射線の事をいろいろとテレビなどで聞い

## 5. 甲状腺エコー検査

9月20日・21日に堀川愛生園、11月29日・30日にいわき育英舎で実施しました。甲状腺エコー前に検査の意味などを説明する時間が十分に取れないので、検査室の前にフリップを掲示して甲状腺の働きや、放射性ヨウ素が癌を引き

## 6. 英語版ホームページを公開しました

ドイツから継続的にご支援いただいている団体、またFUKUSHIMA（フクシマ）がどうなっているかに関心を持っている外国人が多いため、ボランティアの木戸晶子さんのご協力を得て英語版のホームページを公開しています。URL：  
<http://www.fukujidou.org/english/>  
 海外のお知り合いにご紹介ください。

## 7. 本会の長中期的活動について

NPO法人の登記から、10月4日で2周年、福島事務所を開設してから2年9ヶ月になります。これまではその時々必要とされる事業を外部資金を獲得し、具体化・実現化に尽力してまいりましたが、長期的な展望をもって事業を検討する段階となっています。そこで本年6月、10月の理事会では中・長期計画について討議し、来年度(2015年1月

てはいましたが、今までは何を言っているのかわからないことが多かったので、これから少しでも理解していきたいと思いました。”“事故から数年がたち、放射能への関心が薄れてきていたのが事実でした。まだまだ注意が必要だと改めて感じました。影響を受けているので、子どもたちにもそのことを知ってもらいたいと思いました。”

この研修の数ヶ月後に“実は放射線のことをいくら聞いても忘れてしまう・・・よくわからないのです”という声が聞かれました。「聞いてみたい」という要望が職員から出ている限りは勉強会を続けるべきと考えていますが、福島市内で開催する集合型研修では片道2時間かかる施設からは出席が困難で、参加者が限られてしまいます。今後は、施設毎に訪問し、短い時間でも生活に役立つ知識の浸透を図る方法を模索していきます。

起こすメカニズムや、甲状腺エコーの必要性について解説をしました。子どもたちが、甲状腺エコー検査の必要性を理解し、継続して検査を受けられるように、検査の結果を共有しながら進めています。

その他に、2013年5月～8月に実施した「児童養護施設に勤務する看護師に関する全国調査」の結果を、学会や季刊「児童養護」に報告していますが、これをホームページのライブラリにアップし、本調査結果に関する質問用の特設メールアドレスも設けています。児童養護施設で必要とされる看護師についてご関心を持っていただければ幸いです。

～)はこれに基づき活動を展開するべく準備を重ねています。

今後は福島事務所のさらなる事務作業効率化を図り、ホームページ等によって活動内容を広く発信をしていきたいと考えています。皆様方の温かいご支援と、変わらぬご関心が私どもの活動の原動力となっております。今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。



安齋育郎先生による  
第4回栄養勉強会



甲状腺エコーについて  
絵を使って、フリガナを  
ふった解説をつけて、  
検査を受ける前に見ら  
れるようにしました



国道6号線(双葉町)  
2014年9月17日撮影



# 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

共同代表 澤田和美（元武蔵野大学看護学部 教授）

丸 光恵（甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授）

副代表 塩飽 仁（東北大学大学院 小児看護学 教授）

ホームページもご覧ください <http://www.fukujidou.org>

事務所住所・連絡先

〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 メゾンオープンC203

e-mail: [fukujidou@yahoo.co.jp](mailto:fukujidou@yahoo.co.jp) 電話・FAX: 024 - 573 - 2939

♡略称 ICA福子（いかふくこ） Foster Care for **Infants, Children and Adolescents** in FUKUSHIMA

ご支援先

♡ゆうちょ銀行

店名：二二九店（店番号229）

種類：当座預金

番号：02220 - 2 - 118684

名称：福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

♡大東銀行

店名：福島西支店(店番号047)

種類：普通預金

番号：1303901

名称：福児童 代表 澤田和美

♡三井住友銀行

店名：白山支店

種類：普通

番号：6854164

名称：福児童 代表 澤田和美

本会は様々な団体の助成金や皆様からのご寄附により、活動を続けています。これまでのご支援に感謝申し上げますと共に、引き続きご支援をお願い申し上げます。

## 8. 会費の納入および寄付・未使用切手などのご寄附を頂きました

蝦名美智子、太田信吉、太田智恵子、太田一道、太田晃野、太田あかり、太田和晃、太田愛智、玉木敦子、松浦英美、片川亜希子、澤田耕治、澤田稔、原瀬光子、加園貴代子、増田高子、白鳥まゆみ、猪熊京子、川原啓美、片岡安子、船橋よしえ、白井えり子、入江芽吹、細谷たき子、臼井美帆子、杉村太郎、杉村恵子、川北かおり、大畑美和子、馬場隆、小澤英輔、上田睦子、前川礼彦、御宿良和、沖菜穂子、永島敦子、松村芳陽、村岡薫、武井陽一・めぐみ、大塚哲朗、高山喜美子、糸柳尚子、山本敏雄、吉田妙子、八尋尚子、徳永瑞子、木村智一、大町敬子、前田圭子、石原昌子、木下晃子、金子みどり、匿名2名  
法伝寺、へるす出版「小児看護」編集部

## 9. 本会の活動に対して下記の団体からご支援・助成を頂きました

(2014年12月現在)

○認定NPO法人市民活動センター神戸

「選べる！福島応援寄付」

<http://kobekec.net/kifu-fukushima/activity/activity03/>

○日本ルーテル教団 東日本大震災対策

健康手帳電子版の開発支援、機材導入

○全国児童養護施設協議会、第10回西日本児童養護施設職員セミナー大阪大会実行委員会

健康手帳作成事業、電子版施設導入

○公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会

①会計業務のスーパーバイズ、及び帳簿管理の助言

②職員及び児童のクイクセルバッチ装着費用

③甲状腺エコー検査実施時のボランティア医師の交通費、宿泊費、ボランティア保険の費用

④事務所職員人件費助成

○タケダ・いのちと暮らしの再生プログラム

福島県の児童養護施設の子どもと職員の健康状況把握(尿中セシウム検査、甲状腺エコー検査)

<http://www.inochi-kurashi.jp/project/josei/josei4/>

○サントリーホールディング×セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン フクシマススムプロジェクト

福島子ども支援NPO助成

①健康手帳作成事業 ②児童養護施設専門職の集い ③市民への啓発事業

このニュースレターはフクシマススムプロジェクトの助成を受けて印刷しています